朗読の基本

その物語は、全部読もう

抽出部分だけを読み込んでも、人を納得させる読みはできません。物語全体を読んで登場人物の役割を読みとりましょう。そして抽出部分はどこがよいか、しっかり考えましょう。量は600字程度が良いと思いますが、内容によって変動しますので注意してください。

読み方は、徹底的に調べよう

漢字の読み方は先入観で思いこんではいけません。時代とともに読み方は変わります。抽出部分については特に冷静に漢字の読み方を調べましょう。またアクセント・イントネーションについてもチェックが必要です。アナウンス辞典を使うのはもちろんですが、できるだけ多くの人に聞いてもらいチェックするのがよいでしょう。

時代背景を調べよう

物語の書かれている時代を調べましょう。また作者がその物語を書いた時代背景についても調べましょう。そうすることで「読み」に深みが生まれます。

作家について調べよう

作者がほかにどんな作品を書いているかや、プロフィールを調べることはやはり読みの参考になります。作品はもちろん作者が書いたものですが、「時代が書かせた」とも言えるのです。作者がどういう目的でこの作品を書いたか、登場人物に自分が言いたかったことをどうやって語らせているかなど、考えることによって抽出部分決める参考になります。

演劇ではありません。落ち着いて第三者になって語ろう

自分に酔ってしまって、演劇のように語ってしまう人がいます。これではどんなにうまくても「朗読」ではありません。高い評価は得られないと思っていいでしょう。

暗記しない。常に新鮮な気持ちで

朗読は演劇ではありません。暗記して目の前で演じるものではないのです。朗読はあくまで目の前で原稿を読むこと。それだけです。かといって単に読むだけでは薄っぺらなものになってしまいます。人に感銘を与える深い読みをするためには、その作品をどれだけ理解するかに懸かっています。時代背景、登場人物の役割など。調べることはたくさんあ

ります。暗記するとへんな癖がつき、妙な朗読になることが多いのです。しかし、もし、もしも暗記するなら、一字一句、すべてのアクセント・イントネーションをそっくりそのまま何度でも同じようにプレイバックできるように、練習を繰り返す必要があります。実は標準語を普段、話していない地域の学校はこのようにしてNコンを勝ち抜いているのです。だからこの人たちは初見ではうまく読めない人が多いのです。普段標準語（に近い言葉）を話している我々はその分プラスなはずですから、集中した読みで気持ちを声に乗せましょう。他の学校には出せない「新鮮さ」を出しましょう。

自分は醒めている。→ 人を感動させる

どんなに「アツイ」文章でも、醒めている自分を残してください。アツイ文章を伝える醒めた伝い手になってください。そうすると聞き手にじわじわと感動が伝わってきます。

スピードはゆっくり目に

アナウンスと違って、文章の書かれた背景を聞き手に伝えるのは難しいものです。そのために残された方法は、ゆっくりかみしめて読むことです。

カギカッコ「」の読み方に注意

「」は登場人物の言葉です。しかし、その人物になりすぎず、しかし間はそれなりにとりましょう。